

第2回住民部会の論点の整理

第1回議論を踏まえた現況と課題の再確認

大山崎町の地域内交通現況についての認識

交通施設サイド

- ・鉄道は充実しているが、駅が南部に偏心していて、大山崎地区（良 69%、悪 8%）以外では便利が悪いと評価されている（下植野地区：良 6%、悪 65% 円明寺地区：良 14%、悪 55%）。・・・（第1回全体会議資料3「将来の地域公共交通の課題抽出参考シート」）
しかし阪急「西山天王山」新駅の開設で駅の南部偏心が解消する。
- ・路線バスは、バス停中心の半径 500mの円内にほとんどの居住地を納めているが、便数の少なさやダイヤの時間的偏りがあるため利用しづらい。住民の評価は全域的に良くなく、全域平均で悪いのは 57%に達し、良いのは 6%にとどまっている。・・・（資料同上）
また事業者サイドからは、大山崎地区では、居住地が鉄道沿線に沿っていて、鉄道駅へのアクセス手段としての路線バス本来の存在理由が発揮されずに鉄道と競合していること、道路事情の悪さや新駅開業などで、路線維持が困難になっている事情がうたえられている。・・・（参照「阪急バス路線の事業計画変更について」7/31 町企画財政課作成資料）
- ・タクシーは事業所を構えて JR 駅に待機スペースもあることは評価されているが、事業者サイドからは新たな地域公共交通の導入は事業を圧迫するものという認識が示されている。
- ・長寿園の送迎バスは貴重な地域の交通資源であるが、利用がオープンになっていない。

利用者サイド

- ・壮年の健常者にとっては既存の域内交通は不便な側面はあるものの、徒歩や自転車などにより自力で容易に移動可能な範囲にあり、特に問題はない。
- ・増加している高齢者や子育て世代など、現況では自宅からの最初の移動が困難になっている新たな交通弱者が生まれている。（参考：昨年度の京大調査では半径 200mの円からはずれる高齢者人口密度の高い（2000 人／ k m^2 以上）3 地区が、検討地域とされていた。）
- ・障害者や一部の高齢者などの交通制約者にとっては、道路事情の悪さ、施設でのバリアフリー不足、乙訓圏域での福祉輸送制度の未整備などさまざまな問題がある。

課題について

- ・路線バスの縮小傾向もあり、健常者はともかくとしても、交通弱者（高齢者、子育て世代など）にたいする地域公共交通の必要性は高まっている。
- ・コンパクトな町域ではあるが、路線バスの縮小計画もあって、交通空白地域をカバーして地域内を移動しやすくする交通手段が望まれる。それは鉄道利用の外来客を導入し、町全体の活性化を図る手段としての視点も持つべきである。
- ・それも利用できない障害者など交通制約者もあり、それらの人たちにたいする手立ては、既存の制度（タクシー利用制度など）を明確に再整備し、既存の計画（バリアフリー計画など）の推進や、また広域的な制度（乙訓地域での福祉有償輸送）の協議を促進する必要がある。
- ・既存の施設側の送迎交通手段（長寿園バスなど）を資源として活用するという視点も必要である。